



ECO₂ プランふじいでら
藤井寺市地球温暖化対策推進実行計画

平成 15 年度実績報告
(2003 年度)

平成 16 年 6 月
藤 井 寺 市

目 次

1 . 全体.....	1
(1) 総排出量.....	1
(2) 目標に対する進捗状況.....	2
(3) 発生源別の状況.....	2
(4) 項目ごとの経年変化.....	3
2 . 施設分類別排出量.....	4
3 . 公用車の走行距離及び燃料使用量.....	5

ECO₂ (エコツー) プランふじいでら藤井寺市地球温暖化対策推進実行計画の計画期間 3 年目にあたる 2003 年度 (平成 15 年度) における温室効果ガス排出量を集計した。

また、各課室・施設での取り組み状況を合わせてとりまとめた。

対象期間：2003 年 (平成 15 年) 4 月～2004 年 (平成 16 年) 3 月 (12 か月)

目 標：温室効果ガス排出量を 2005 年度 (平成 17 年度) において、1998 年度 (平成 10 年度) から 5% 削減する。

1. 全体

(1) 総排出量

今年度の市全体における温室効果ガス排出量は、基準年度である 1998 年度 (平成 10 年度) と比較して、表 1-1 及び図 1-1 のとおり 2.4% 減少している。昨年度は 0.2% 減少 (推定値) であった。

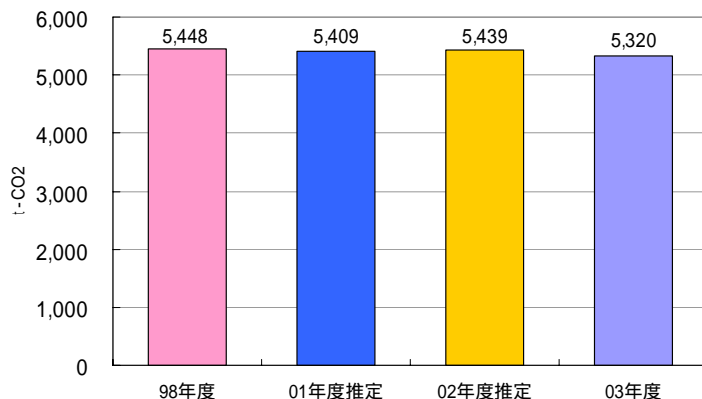
月別の温室効果ガス排出量をみると、基準年度と比較して 6～10 月の排出量が大きく減少されている。しかし、平成 15 年度は、冷夏の影響で例年より気温の低い日が多かったことも考慮に入れておく必要がある。その他の月では、4 月及び 1～2 月の排出量が増加している。

なお、稼働を停止していた市民総合会館本館が、今年度より稼働を再開したため推定値の算出はしていない。

表 1-1 全体排出量の年度比較

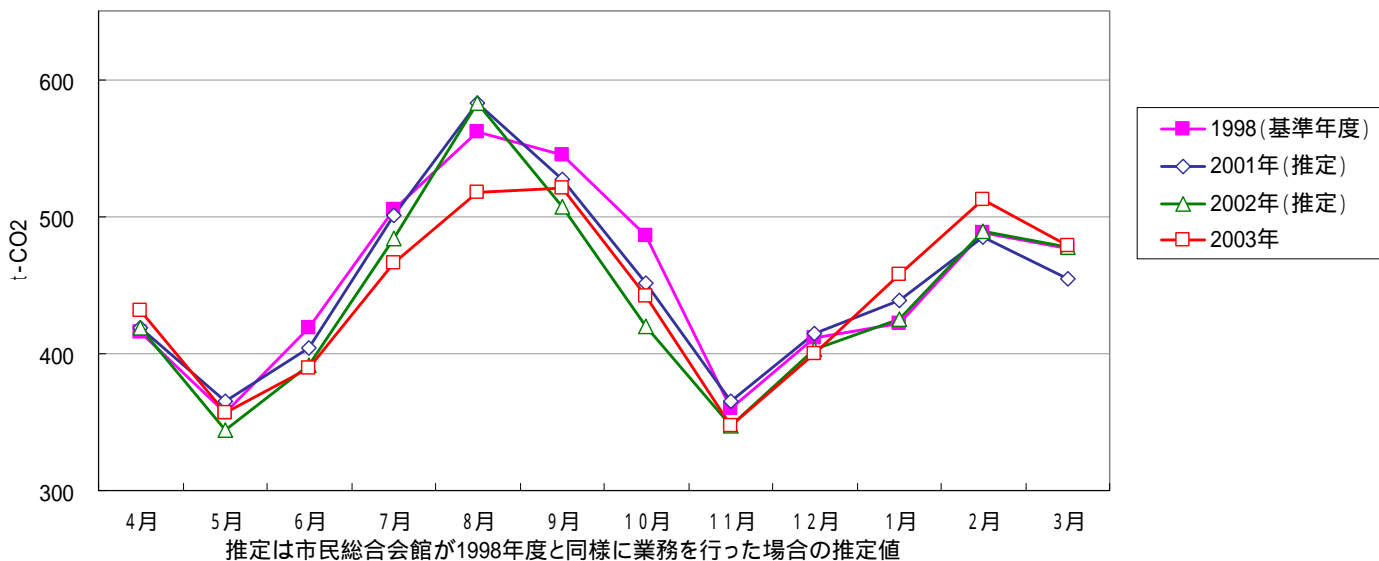
項目	総排出量 (t-CO ₂)	1998 年度を 基準とした割合	削減率
1998 年度	5,448.2		
2001 年度	4,944.4	90.8%	9.2%
2001 年度 (推定)	5,408.9	99.3%	0.7%
2002 年度	4,957.5	91.0%	9.0%
2002 年度 (推定)	5,438.8	99.8%	0.2%
2003 年度	5,319.8	97.6%	2.4%

推定：市民総合会館が 1998 年度と同様に業務を行った場合の推定値



推定：市民総合会館が1998年度と同様に業務を行った場合の推定値

図 1-1 全体排出量の年度比較



推定は市民総合会館が1998年度と同様に業務を行った場合の推定値

図 1-2 全体排出量の月別変動

(2)目標に対する進捗状況

エネルギー等の使用量削減に関する目標との比較は、表 1-2 のとおりである。

大きく減少している項目としてはA重油が51.6%、公用車を除く燃料用ガソリンが77.0%、灯油が43.4%、軽油が86.8%となっている。また、都市ガス、公用車の使用及び水道使用量でも削減が進んでおり、平成15年度の時点では目標を達成している。増加した項目としては電気が1.9%、LPGが12.0%、紙使用量が11.7%及び、笑気ガスが6.7%となっている。

表 1-2 エネルギー等の使用量削減に関する目標に対する進捗状況

項目	平成17年度(2005年度)における目標	細項目	進捗状況
			平成15年度(2003年度)
			実績
電気	平成10年度(1998年度)に対し、 約5%削減する。		1.9%
都市ガス	平成10年度(1998年度)に対し、 約5%削減する。		-7.1%
A重油	平成10年度(1998年度)に対し、 約4%削減する。		-51.6%
その他燃料	極力削減に努める。	ガソリン	-77.0%
		灯油	-43.4%
		軽油	-86.8%
		LPG	12.0%
公用車の使用	平成10年度(1998年度)に対し、燃料使用量及び走行距離を 約10%削減する。	走行距離	-11.7%
		ガソリン	-17.9%
		軽油	-19.7%
水道使用量	平成10年度(1998年度)に対し、 約5%削減する。		-18.0%
紙使用量	平成10年度(1998年度)に対し、 約5%削減する。		11.7%
笑気ガス()	極力削減に努める。		6.7%

笑気ガス：市民病院で使用している麻酔薬のことである。

(3)発生源別の状況

温室効果ガス排出量は、図 1-3 に示すように、電気使用に係るものが大きな割合を占めている。このことから、温室効果ガスの削減には電気使用量の削減が重要であることがうかがえる。

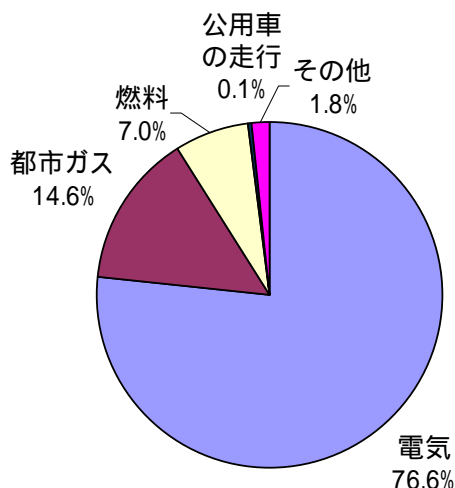


図 1-3 発生源別の温室効果ガス排出割合

(4)項目ごとの経年変化

エネルギー等の使用量の経年変化は、図 1-4 のとおりである。

電気は目標値を達成しておらず、使用量も基準年度より増加している。都市ガスは目標を達成している。A重油は、雨水ポンプ場の稼働が例年より少なく、また市民病院での調達が大幅に減少したことから、基準年度と比較しておよそ半分となり、目標値を達成している。公用車の走行距離、ガソリン及び軽油の使用量は基準年度と比較していずれも大きく減少しており、目標値を達成している。水道使用量は基準年度と比較して大きく減少しており、目標値を達成している。紙使用量は基準年度と比較して大きく増加しており、目標を達成していない。

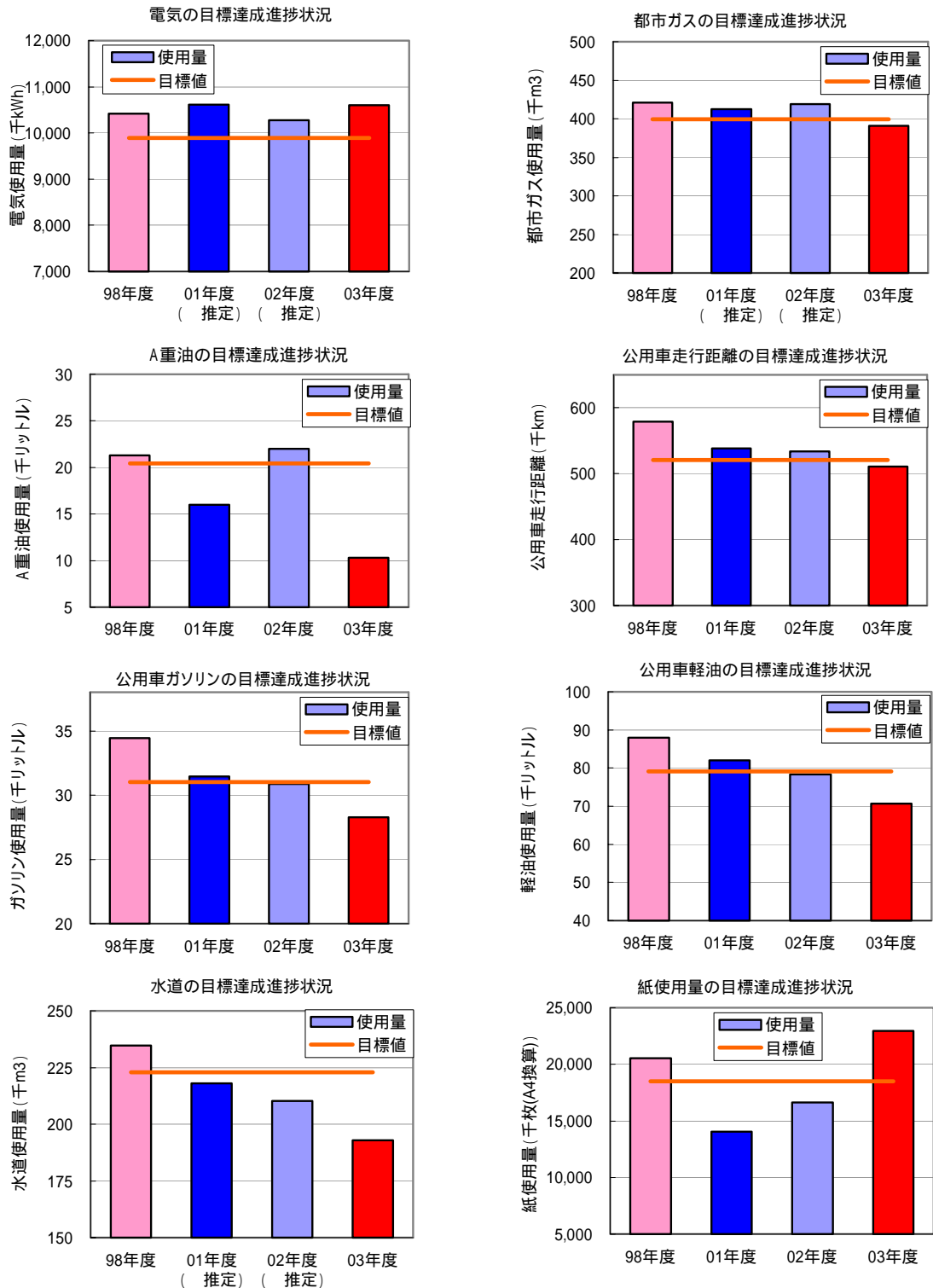


図 1-4 項目ごとの経年変化

2. 施設分類別排出量

市全体における温室効果ガス排出量は基準年度と比較して 2.4%減少であり、ECO₂ プランふじいでらの目標である 5%削減にはさらなる努力が必要である。

温室効果ガス排出量を本庁、教育等施設、市民利用施設及びその他施設の 4 分類別で比較した場合の状況は以下のとおり。

- ・ 本庁では基準年度と比較して、11.5%の減少となっており、目標は達成されている。
- ・ 教育等施設では基準年度と比較して 4.6%の増加となっており、目標は達成されていない。
- ・ 市民利用施設では基準年度と比較して 4.8%減少し、目標達成間近である。
- ・ その他施設では基準年度と比較して 1.3%の増加となっており、目標は達成されていない。

表 2-1 年間総排出量の年度比較

単位：t-CO₂

		電気	都市ガス	燃料	公用車の走行 (燃料以外)	その他 ()	合計
全体	2003	4,073.4	778.1	370.7	3.8	93.8	5,319.8
	2002	3,773.4	672.7	415.3	3.9	92.1	4,957.5
	2001	3,837.7	597.3	416.8	4.4	88.2	4,944.4
	1998	3,999.3	837.7	511.1	4.3	95.9	5,448.2
	増減率	1.9%	-7.1%	-27.5%	-11.5%	-2.2%	-2.4%
本庁	2003	461.9	85.5	111.5	2.0	30.2	691.1
	2002	490.4	88.9	115.5	2.0	34.3	731.2
	2001	480.0	96.9	123.6	2.4	35.3	738.3
	1998	508.8	90.9	145.5	2.4	33.6	781.2
	増減率	-9.2%	-5.9%	-23.4%	-17.7%	-10.1%	-11.5%
教育等施設	2003	535.8	146.2	1.3	0.0	0.0	683.4
	2002	539.2	153.5	1.0	0.0	0.0	693.6
	2001	533.8	142.4	0.9	0.0	0.0	677.2
	1998	508.0	144.3	1.3	0.0	0.0	653.6
	増減率	5.5%	1.3%	1.9%			4.6%
市民利用施設	2003	1,240.6	523.2	40.6	0.2	53.8	1,858.4
	2002	1,069.6	406.7	52.7	0.2	47.0	1,576.3
	2001	981.9	335.3	45.9	0.2	40.9	1,404.3
	1998	1,258.6	580.8	63.8	0.2	49.6	1,952.9
	増減率	-1.4%	-9.9%	-36.3%	9.0%	8.5%	-4.8%
その他施設	2003	1,835.1	23.1	217.3	1.6	9.8	2,086.9
	2002	1,674.3	23.5	246.1	1.8	10.8	1,956.5
	2001	1,842.0	22.6	246.3	1.8	12.0	2,124.7
	1998	1,723.9	21.7	300.5	1.7	12.7	2,060.5
	増減率	6.4%	6.8%	-27.7%	-5.0%	-22.8%	1.3%

その他は、カーエアコンのフロン漏出、笑気ガス

3. 公用車の走行距離及び燃料使用量

公用車については平成 14 年 4 月から実施している「藤井寺市地球にやさしい公用車推進計画～エコカープランふじいでら～」に基づき、公用車の台数削減とともに、更新時には低公害車を導入することを原則としている。

公用車による燃料使用量と走行距離の増減は、表 3-1 及び図 3-1 に示すとおりであり、基準年度と比較すると、ガソリンで約 6 千リットル、軽油で約 1 万 7 千リットルの削減となっている。走行距離はガソリン自動車、軽油自動車の合計で約 6 万 4 千 km の削減となっている。

また、低公害車の導入も進行しつつあり、平成 15 年度に更新した公用車 7 台のうち、天然ガスを燃料とするゴミ収集車 3 台を含め、低公害車は 5 台である。

表 3-1 公用車の燃料使用量と燃費の増減

項目		1998 年度	2001 年度		2002 年度		2003 年度	
		実績	実績	増減量	実績	増減量	実績	増減量
ガソリン	走行距離 (km)	257,173	233,183	-23,990	243,802	-13,371	236,247	-20,926
	使用量 (リットル)	34,448	31,067	-3,381	30,968	-3,480	28,399	-6,049
	km/リットル	7.47	7.51	0.04	7.87	0.40	8.32	0.85
軽油	走行距離 (km)	321,791	303,385	-18,406	293,686	-28,105	279,120	-42,671
	使用量 (リットル)	87,922	82,053	-5,869	78,378	-9,544	70,638	-17,284
	km/リットル	3.66	3.70	0.04	3.75	0.09	3.95	0.29
合計	走行距離 (km)	578,964	536,568	-42,396	537,488	-41,476	515,367	-63,597

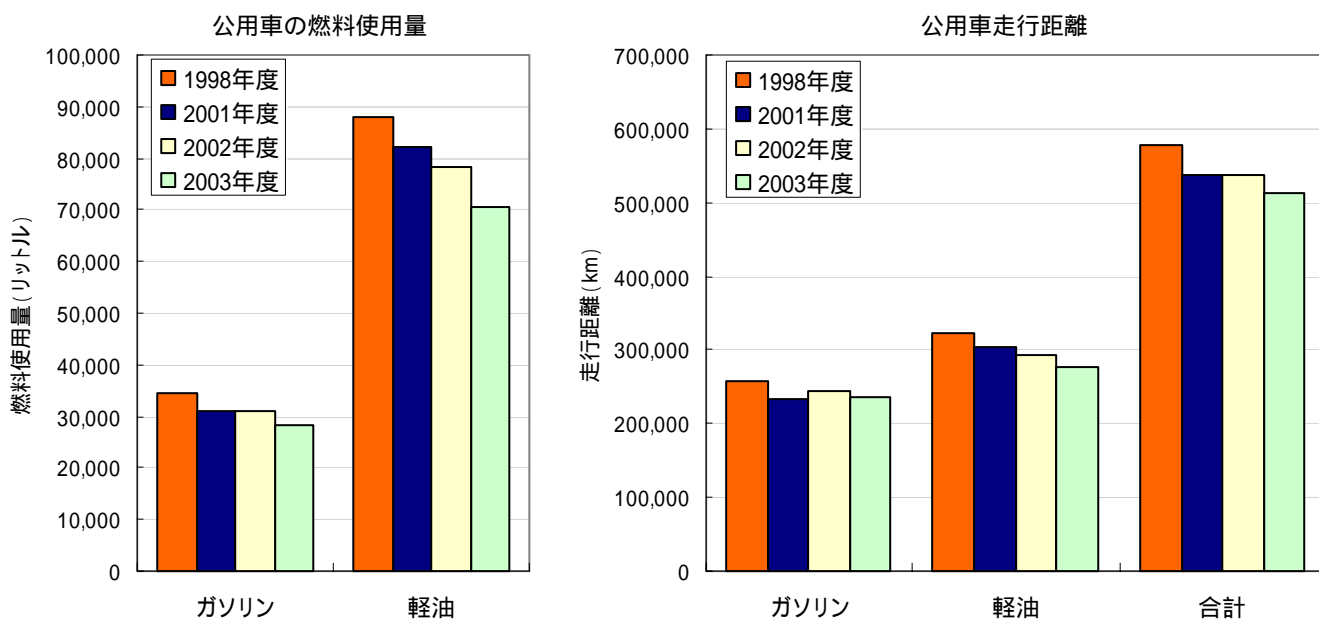


図 3-1 公用車の燃料使用量と走行距離の年度別推移